

NPOを作ってみよう！

「何かしたい！」という想いを、課題の解決のための一歩に変え、
社会を変えるNPO活動を始めよう！

NPO活動で活躍している人、これから始めようと思っている人、活動に関心をもっている人は年々増えています。市民が主体となり、自由な発想で柔軟に対応できるNPO活動は、少子高齢化社会を迎え、行政や企業の新たなパートナーとして、また地域社会を支える担い手として期待されています。市民の力は、これからのまちづくりにおいてとても大切です。

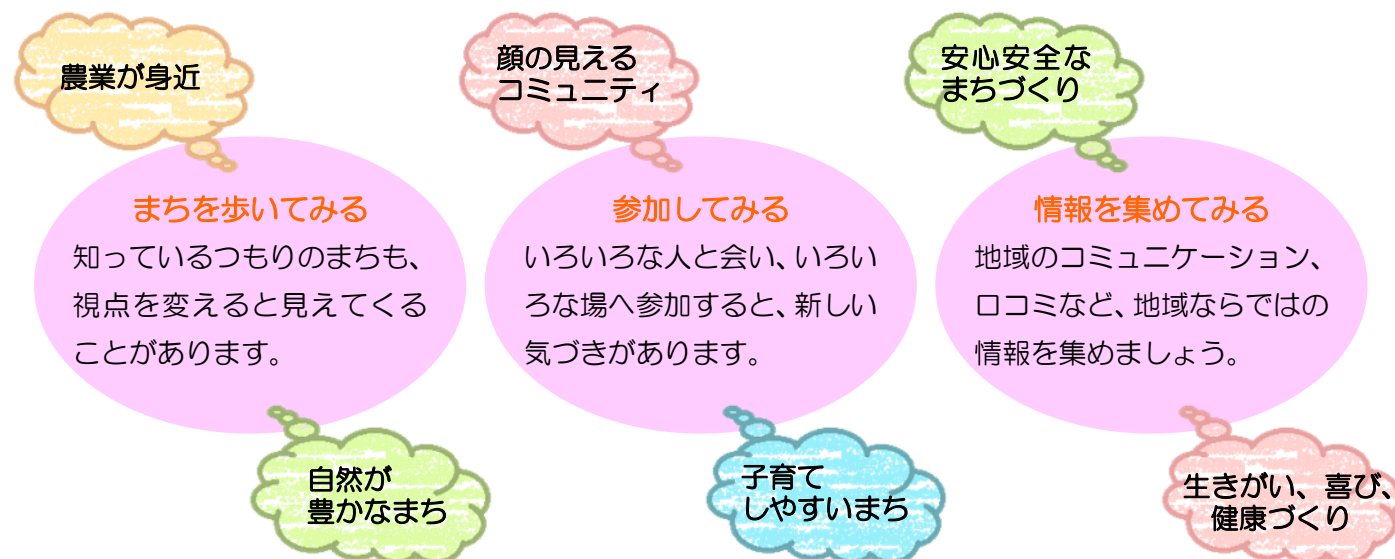
まちや地域、社会のために何かしたい、そんな想いをもった仲間が集まったら、その想いを実現する地域の担い手として、NPO活動の第一歩を踏み出してみましょう。

NPO活動とは、自分たちのために自分たちのしたいことをすればいいサークルや、同好会とは違います。NPO活動は社会から求められていることを、必要としている人や状況に応えることで、最終的に社会を変えていくことを目的としています。NPOは自分たちだけで活動を行うのではなく、市民や社会から共感を得、多様な組織や多くの人を巻き込むことで、大きな力を発揮することができます。社会のために行っているつもりでも、自分たちがしたいことばかりが優先されてしまったり、社会によさそうだからという思いこみで活動してしまうと、まわりからの共感を得ることはできず、団体を継続していくことは難しいでしょう。課題と向き合い、ニーズに耳を傾け、社会を変えていくという目的を常に念頭に置いて活動をしていきましょう。

1. 地域課題、社会課題、地域資源、ニーズを見つける

まず初めに、課題を見つけ、ニーズを把握することが必要です。まちを歩いたり、いろいろな場に参加したり、情報を集めたりしながら、地域や社会の課題、資源を探してみましょう。人と話し、ニーズを掘り起こしましょう。

地域や社会には、行政や企業、個人では解決できないけれど、NPOのように自由な立場だからこそ解決できる課題があります。



地域の課題・社会の課題

地域の資源

ニーズ

2. メンバー、団体の強みや好きなことを確認する

活動を始めるときには、メンバーそれぞれの好きなことや得意なことを生かすことも大切です。団体の強みにもなり、他団体との差別化を図ることもできます。また、活動を継続するための“やりがい”にもつながってきます。

メンバーの好きなこと

メンバー、団体ができることや特技

NPOのミッション

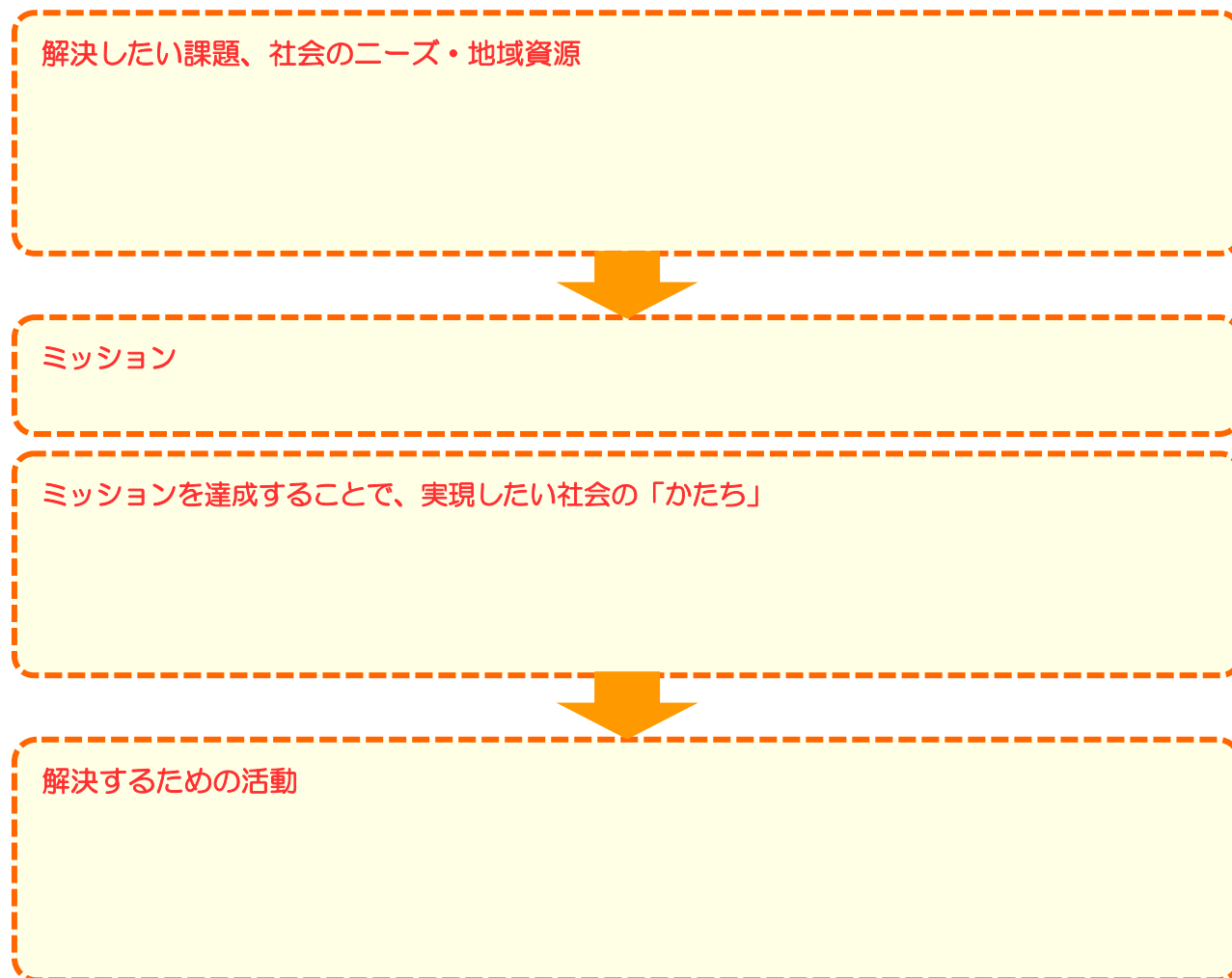
ミッションとは、NPOが目指す使命です。NPOが活動するうえで、団体が目指す使命を明確にすることはとても大切です。団体は、地域課題を解決し、よりよい社会を目指すために、ミッションを達成します。自分がやりたいから、得意だからなど、自分本位な理由を優先するのではなく、地域や社会の課題やニーズをしっかりと把握し、課題解決するために、自分たちのやりたいこと、得意なことを生かしましょう。

3. ミッションを明確にする

まちを歩いて情報を集め、ニーズを調査し、メンバーそれぞれの得意技、団体の強みを確認したら、それらを元に団体が解決したい地域や社会の課題、生かしたい地域資源、具体的なアプローチ、活動、そして、その活動によって得られる成果、目指すまちや社会の姿を明確にしましょう。それが団体の**ミッション**です。理念、目的、使命、設立趣旨と言い換えてもよいでしょう。

これが活動の根幹になる部分です。メンバーそれぞれのアイデアやしたいこと、できることを整理し、何度も時間をかけて話し合い、メンバー全員が納得できるものを作りましょう。これから一緒に活動をしていく仲間が目的を共有していることは大きな力になります。活動をするときには、常にこのミッションを実現するためということを忘れず、活動に迷うとき、会員の想いにぶれが生じたときには、この原点に立ち返ってみましょう。

ミッションや事業計画の作成は、メンバー全員で関わるのが大切です。全員で作成することで、一人ひとりがやりがいをもって、当事者として関わるすることができます。中心になる人だけの想いで活動している団体は、その人がいなければ継続できない状態になってしまったり、他のメンバーは他人事となってしまい、責任感をもって関わらなくなってしまうのです。



4. 前向きでわかりやすい団体の名称をつける

さあ、これから活動を始めます。誰にも団体の活動が伝わるようなわかりやすい、前向きな名称をみんなで考えましょう。

できたら、どういう地域でどんな活動をしているのかが明確にわかる名前がベストです。市民活動支援センターに登録している350団体のうち、80団体が八王子から始まり、120団体が八王子を使っています。活動を表すために長い名前の団体もありますが、補助金の申請、会議室の利用登録、いろいろな場面で団体名を書く機会は結構たくさんあり、長すぎて大変という声も聞いています。また、一般的な名詞（例、さくら・いちょうなど）を使うと、同じ団体名になってしまう場合もあります。もしNPO法人の認証を目指すのであれば、同じ名称を使うことは禁止されていませんが、まったく同じ名称だと混乱やトラブルの元ともなりますので、できれば避けましょう。予定している法人名と同じ名称はないか、インターネットなどで検索してみるとよいでしょう。

5. 活動にあった団体の「かたち」を決める

NPO活動を始める際、活動にあった団体の「かたち」を決める必要があります。任意団体か、法人格を取得するのか、法人格もいくつか種類があります。それぞれのメリット、デメリットを理解したうえで、活動するために最適なかたちを選びましょう。

(1) 任意団体

特に届出など必要なく、意志があれば自由に設立できます。しかし、団体としてしっかりと活動するのであれば、基盤となるものが重要です。ミッションや団体の目的、規約、会計処理などを明文化しておいた方がよいでしょう。方向性を明確にしておかないと、途中で自然解散となってしまう場合もあります。

(2) 特定非営利活動法人（NPO法人）

特定非営利活動促進法に基づき、20分野の特定非営利活動を行うことを目的に設立し、所轄庁に認証された団体のことをいいます。認証に際しては、さまざまな書類の提出、10人の社員（正会員）が必要です。認証後も毎年の事業報告など、煩雑な手続きがありますが、社会的信用の向上、法人名での契約ができるなどのメリットもあります。

(3) 一般社団法人・一般財団法人

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づいて、剰余金の分配を目的としなければ、行う事業の公益性の有無にかかわらず、誰でも設立できます。設立に関しては、社員2名以上、費用が12万円ほどかかります。最近では、営利を追求しない社会貢献企業や小さな事業の立ち上げに選ぶ団体も多くなっています。

この他にも、公益性の要件を満たした公益社団法人、公益財団法人があります。

(4) 社会福祉法人

社会福祉法に基づく社会福祉事業を行うことを目的として、所轄庁に認可され、設立登記をした法人です。設立に関しては、原則社会福祉事業に必要な不動産や資金があることが要件となります。

(5) 株式会社

会社法に基づき登記をすれば誰でも設立できます。資本金は原則1円以上、株主は1人以上、設立費用は約24万円です。最近では公益的な活動をする非営利型株式会社と名乗る法人もあります。

6. 運営体制を整える

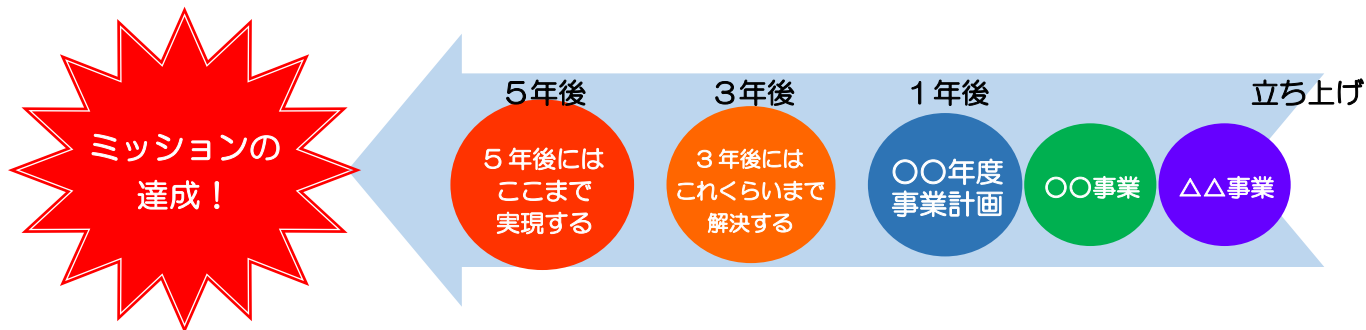
これから団体として事業を始め、それを継続していくためには、運営体制をしっかりと整える必要があります。

- 人 代表者、広報担当、会計担当等、実際の運営に関わる人と、会員の種類や要件なども決めましょう。
- 規則 NPO法人なら定款を用意する必要がありますが、任意団体であっても、名称、活動目的、事業内容、会員や役員、運営体制などを決めておくことをお勧めします。
- お金 設立に関して必要な資金はどうするのか、運営費、事業費の収支など、初めにしっかりと予算を立てましょう。また、会員の会費なども決めておきましょう。
- 事務所 初めはメンバーの自宅ということが多いでしょうが、活動を広く展開していくためには、独立した事務所があることが望ましいです。

そして、もう一つ大事なことはリスクマネジメントです。参加者がけがをしたり、物を破損してしまったりという万が一の事故、ケースによっては損害賠償責任を問われることもあります。事前に自分たちの活動に必要な正しい知識と技術を学習する機会を作るとともに、NPO保険などを活動に合わせて積極的に利用しましょう。

7. 事業計画を立てる

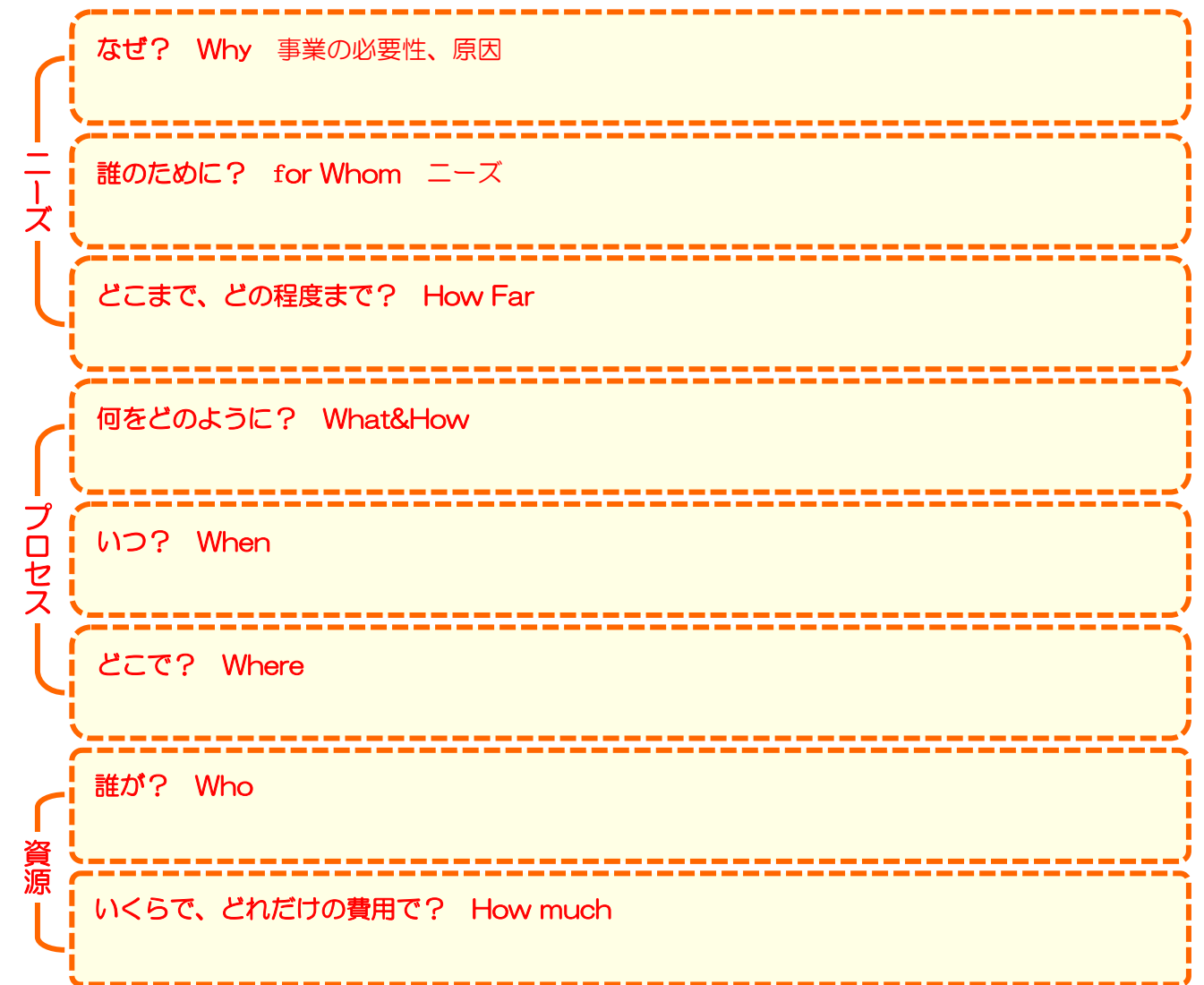
NPO活動で大切なことは、ミッションの達成を目標に、事業を継続させることです。よいことを始めても継続できなければ、一時的には何かが変わったとしても、それは一時的なものでしかありません。事業を継続させるためには、場当たりのではなく、中長期を見据えた計画を立てましょう。



最終的なミッションの達成のために、「〇年後にはこれくらいまで達成したい、そのためにはいつ、どこで、どういう事業を、誰に対して行っていく」という明確な目標を、段階を踏みながらもち、実現をしていくとよいでしょう。大きな目標に向かって、小さな目標の達成を積み重ねていくことが大事です。そして、目標には具体的な数値目標も入れましょう。具体的な数値を把握していることは、現状を客観的に分析し、目標の進捗状況を組織全体で共有することができます。

そして、活動の輪郭が明確になってきたら、地域の課題、ニーズに合っているのか、事業計画を再確認しましょう。対象者の困っていることや件数を調べる、他の地域や、過去、現在の状況を比べる、当事者や関係者の声を聞く、事例を探すなどの調査を行い、事業計画が地域の課題やニーズに合っているのかを確認します。また計画が、本当に団体にとって実現可能なものか、継続性があるかなど、いろいろな視点で団体の状況を把握し、確認することが大切です。

事業計画は、ミッションを達成するための長期計画、その途中の中期目標、各事業年度の事業計画、各事業の計画などがあります。その計画ごとにニーズ、手法、資源を整理しましょう。



8. 活動をはじめたら、PDCAサイクルで活動を管理する

NPO活動は、社会課題の解決を目指す一方、想いが強すぎるなど、自己満足に陥りやすく、社会課題の解決には至らないケースがあります。そのような状況に陥らないためには、自分たちの事業を客観的な視点で評価することが大切です。PLAN（計画）⇒DO（行動）⇒CHECK（評価）⇒ACTION（改善）のPDCAサイクルを繰り返すことで、充実した活動を行うことができます。

PLAN

目標を設定し、具体的な行動計画を作ります

DO

計画に沿って、組織や役割を決めて具体的に行動します

CHECK

途中で成果を測定・評価します

ACTION

必要に応じて修正を加えます

